

社会情報学部 (荒牧地区)

高度情報社会の到来は、仕事や勉強の仕方から、政治・経済のあり方、消費・レジャー行動に至るまで、社会のあらゆる分野に大きな変化を引き起こしている。この変化を多角的・総合的に把握し、そこに発生する各種の問題を解決するためには、細分化されている既存の学問では対応しきれない。本学部では、情報科学、人文科学、社会科学、環境科学といったさまざまな分野の専門家が互いの研究成果を融合させることで、高度情報社会の諸問題の解決策を探究している。

社会情報学部

学 科	入学定員	3年次編入学定員	専門科目	特別選抜（入学後）
社会情報学科	100	20 (平成30年度から)	コア科目（社会情報学入門科目、メディア科目、コミュニケーション科目、情報科目） リサーチスキル科目（研究方法科目、データ解析科目、情報処理スキル科目） コミュニケーション科目（外国語コミュニケーション科目、表現スキル科目） プロジェクト科目 ディレクション科目（メディアと文化、公務と法律、経済と経営）	データ解析プログラム（10名） 教育・社情GFLコース（10名）

GFL：グローバルフロンティアリーダー

学 科	入学定員	3年次編入学定員	専門科目
情報行動学科	—	10 (平成29年度まで)	情報メディアコース 情報システムコース
情報社会科学科	—	10 (平成29年度まで)	社会・政治科目群、法律科目群、経済科目群、経営科目群、環境科学科目群

社会情報学研究科（修士課程）

専 攻	教育・研究領域（小区分）			入学定員
社会情報学専攻	社会情報基盤領域	経済・経営領域	経済・産業	14
			経営・環境	
		地域・行政領域	地域・コミュニティ	
			行政・法律	
文化・コミュニケーション領域	文化・歴史 コミュニケーション			

社会情報学教育・研究センター

設立趣旨・目的	主な活動内容
当センターは高度情報社会が内包する諸課題の解決を実現するため、社会情報学的研究領域の研究拠点として、社会情報学研究センターの名称で平成20年10月1日に発足した。そして、平成28年4月1日に、社会情報学の研究推進や教育の質的転換の推進とともに、それら成果を社会貢献に結びつけることを目的として、研究部門・教育部門・社会貢献部門の三部門制の社会情報学教育・研究センターとなった。	研究部門は、研究プロジェクトの企画及び推進支援に関することや研究論集の電子発行、シンポジウム、講演会等の開催に関することなどを業務としている。 教育部門は、社会情報学教育に関する研究及び普及に関することや新しい教育方法の研究及び普及に関することなどを業務としている。 社会貢献部門は、学部・大学院の教育・研究の成果に基づく社会貢献の推進に関することを業務としている。



授業風景



地域貢献シンポジウム



学生が制作・編集した「学部紹介パンフレット」